ご卒業　おめでとうございます。

使命と責任を背負う大人への門出をお祝いして、私の思いを語らせてもらいます。

修猷には「修猷を誇るな、修猷が誇る人となれ」という教えがあります。私は、今日ここに集う、君たちのことを修猷として誇りに思います。君たちは、この修猷という学びの場で、自分を磨き、仲間と切磋琢磨し、新たな道、新たな世界を切り拓いてきました。このことは、修猷では当たり前のように語られますが、決して簡単なことではありません。

特に今年は、コロナ禍において今までの常識が通用しない状況の中で、君たちは過去のどの修猷生も経験したことのない未知のことに挑み続けました。どんな状況においても「何とかなる、どうにかする」という心持ちで、みんなで知恵を出し合い、覚悟を決めて行動しました。しかも、伝統を意識し、その伝承はもちろん、新たな伝統をも築こうとしました。君たちの先輩は、この伝統について「それは修猷における日々を真剣に生きてきた一人ひとりの思いが蓄積されて生まれてきたもの」と語っています。まさに君たちの姿は修猷の伝統そのものです。

本当によく頑張った、よくやった。そして、ありがとう。

君たちがたくましく成長できたのは、この修猷で、最高の仲間、個性豊かな先生方、社会の第一線で活躍されている母校愛にあふれる館友の先輩方との出会いがあったこと。その上で、修猷独自の校風・文化にあたたかく包まれ、一人ひとりが自由闊達に学び、挑みつづけてきたからだと思います。

君たちの修猷には、君たちにとっての「何か」がありました。居心地がよく心の落ち着く場、志の高い人が良い加減に集う場、五感が研ぎ澄まされる場。そして、尖った個性で輝いている人、空気をあえて読まない人、どういう状況でも楽しんでいる人など。「いいものはいい！」君たちはそんな修猷で学び、たくましくなったと思います。昨日の予餞会で、君たちが語った熱い思いは、在校生・修猷の心に確実に届きました。

次のステージに挑む君たちには、かくも成長できたという「感謝」の気持ちを、自らの志を成し遂げるという「決意」に変えてください。その志に、世のため人のための精神のもと、今後は意識を更に社会へと向け、自らの生き方を考え、日本という国を思い、これからの日本・世界を担う覚悟を加えてほしい。君たちにはその資格と使命があります。

結びになりますが、保護者の皆様に、お礼を申し上げます。ご入学以来、本校教育に深いご理解とご協力賜り、誠にありがとうございました。特に、コロナ禍の難しい状況においても、温かく見守っていただきましたことに厚く感謝申し上げます。

それでは、卒業生の皆さん、館友にはさよならは必要ありません、次は館友として「いつでも・どこでも」熱く修猷を語り・楽しみましょう。

君たちの未来が光り輝くことを祈念し、式辞といたします。

令和四年三月五日　　福岡県立修猷館高等学校　館長　岡本　圭吾